

「この人 58」

藤森荘吉 東京都 六十歳

編集部 俳句を始められたのは？

藤 森 子規が好きだったんですが、虚子の愛弟子の伊藤柏翠氏が知人でして、一九七九年・昭和五四年から指導を受け始めました。八木会長とBS俳句王国で出会いまして、その後もおつきあいのある中で、「俳壇」の万愚節に投句を始めました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

藤 森 突き詰めず、軽み、軽さという考え方で心を用いるので、明日を楽しみに思えるようになりますね。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

藤 森 多様な視点から、ものは言いよう、考えようだということを発見できます。目からウロコが落ちて、はたと膝を打つことができるものです。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かったことは？

藤 森 人生の箸休め。癒しと挑みの心を与えてくれます。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

藤 森 それは、誰にも教えません（笑）。教えるかどうかは、人によりけりです（笑）。

#### 【代表句】

鼻濁音上手くなりたり杉の花  
井の中を楽しんでゐる蛙かな  
ブルブルといふ名のゴリラ春愁ひ  
梅雨最中疲れやすいに丸つける  
長き夜やはたと気がつく勘ちがひ